一　次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

「わたし」と※1美凪（みなぎ）は幼なじみであった。中学生になり、久しぶりの再会をはたす。美凪はグライダーに乗りたいと思い始め、「わたし」も、美凪とのグライダー体験費用を用意するために、美凪と二人でストリートミュージシャンの※2孝（たかし）を真似（まね）て路上演奏をすることとなった。「わたし」は、これまで練習してきたキーボードを弾（ひ）こうと思ったが、電源がないためにピアニカを演奏することになった。

その演奏の当日、「わたし」は両親に内緒で出かけ、その演奏している姿を両親に見られてしまう。以下は両親の帰宅を待つ場面から始まる。

叱（しか）られることが発覚したときから、叱られる直前までが、いちばん嫌な時間だと思う。

心のなかで言い訳をいっぱい考えるし反省もするけれど、①叱られることからは逃げられないし、叱られている惨（みじ）めな自分を何十回も想像する。

美凪は一緒に謝ると言ってくれたけれど、わたしは断って、一人で先に帰ることにした。

でも、②わたし、いったいどんな悪いことをしたんだろうか。褒（ほ）められることではないけれど、悪いことなんてしていない……はず。だって美凪にはお金が必要だったんだもん。わたしはお手伝いしてあげたかったんだもの。

わたしが中学生だからいけないの？　それとも、出井大（いでいひろし）と音緒（ねお）の娘だからいけないの？

両親は、夕方になってから、疲れた様子で家に帰ってきた。

わたしの気も知らないで、寄り道して有名店の宇都宮餃子（ぎょうざ）のお土産を買ってくるなんて、余裕だ。さっさと叱って、③宙ぶらりんの状態を終わりにしてほしいのに。それとも、反省させるために、時間をつぶしてきたのかな。

わたしは部屋に立てこもらずに、先に謝る作戦に決め、ダイニングでずっと待っていた。

「今日は……ごめんなさい」

「あら、ちゃんと帰ってたのね。今日はびっくりしたわ」

「図書館に行くって嘘ついてごめんなさい」

「そうね、嘘はよくないわね」

お母さんは、お茶を入れる準備をしながら言った。

「④キーボードを欲しがったときから、様子がおかしいと思ってたのよね。このごろ熱心に練習しているようだったし」

⑤急に目の前がさーっと暗くなったような気がした。

キーボードのことは関係ない。ピアニカ没収なら話はわかるけれど、キーボードは取られたくない。

わたしは、キーボードがとても必要だった。美凪と練習を始めて、なんにも取り柄（え）のない空（から）っぽなわたしを、ほんの少しのあいだでも満たしてくれるのが、音楽だって気づいたんだ。まだすごく下手で、間違えてばかりいるし、難しいところはごまかさないと弾けないけれど、キーボードに向かっているあいだだけは、自由になれるような気がしていた。

「わ……わたし、ちゃんと勉強しているじゃない。言われたとおりの高校行

くために、塾だって通ってる。わたしは勉強ばかりしてなくちゃいけないの？　お母さんやお父さんは、わたしがみんなに自慢できる高校行ければ満足かもしれない。けど、わたしはそれだけじゃ嫌なの！　キーボード取られたら、また、空っぽになっちゃうよ！」

大声を出したら、不覚にも涙を落としてしまった。

「あらあら……泣くことないじゃない」

これは、泣きたいほどに、重要なこと。

⑥これ以上、わたしの自由を奪（うば）わないで！

この思いを、言葉に変えて、はっきりと伝えることができたらいい。だけどわたしは心のなかで叫ぶだけ。伝えたい思いは全部涙に変わって、力なくぼろぼろ落ちてしまう。

⑦どうしてわたしはだめなんだろう。いつからこんなに、意気地がなくて自信がない子になってしまったんだろう。

大きくなったら、お父さんやお母さんみたいに、⑧ちゃんとした大人になるんだって思っていた。有名人や億万長者にならなくても、自分に誇りを持って、将来は、両親からも自分の子どもからも自慢される人物になるんだって、信じていたのに……。今のわたしには、そんなことすら、大それた夢のような気がする。

お父さんがティッシュボックスをそっとわたしの前のテーブルに置いた。なんで優しくするんだろう。よけいに涙が止まらなくなった。親の前でみっともなく泣いてしまってる自分が、惨めで、情けなくて、消えてなくなりたいくらいだ。

お母さんが、鼻歌を歌いながら三人分のお茶をテーブルに並べた。お父さんが一口すって、わざとらしくアチッと（　A　）。

「落ち着いた？」

お母さんの言葉に黙ってうなずくと、

「初音（はつね）が泣くところ、久しぶりに見たよ。まだ涙腺（るいせん）が詰（つ）まっていないとわかって、安心した。お前は正常だ」と、お父さんが（　B　）。

「勉強は、嫌か？」

わたしは、首を横に振ってから、縦にも振った。

「（　C　）」

「母さんの母校には、行きたくないのか」

「行きたくないわけじゃないよ。でも、自信がない」

「ほかに行きたい学校はあるのか」

「わからない。でも、わたしはそこに行かなくちゃいけないんでしょ」

お父さんは、ふうっと息を吐いた。

「高校のことは、勉強を怠（なま）けないよう、目標に掲（かか）げてやっただけだ。初音に行きたい学校があるなら、そこでかまわないんだぞ」

「お父さんも私も、中学のころは毎日部活に夢中だった。なのに初音ったら、部活にも熱中する様子はないし、なんにも関心がないみたいだから、心配だったの。だから、せめて勉強だけでも自信に結びつくものがあればいいって思って、ハッパをかけていただけよ」

「嘘……。いつもわたしのこと、どこの高校に行ってどこの大学を卒業して、地元に戻って就職をして、いい人を見つけて結婚したら旦那（だんな）さんとこの家に一緒に住んで、孫が生まれたらどこでお宮参りするかとか話してて、お父さんもお母さんもわたしの人生を、全部決めていたじゃないの」

「そんなこと、本気にしていたの？　それは私たちの希望を言っただけよ。その、思い込みが激しくておっちょこちょいな性格、だれに似たのかしら。

あなたの人生なんだから、あなたの好きなようにすればいいじゃない。こっちだって全部が全部、親の思い通りになるなんて思ってないわよ。初音があんまり従順なんで、心配していたくらいだわ」

なんてこった。そんな話、はじめて聞いた。それならそうと言ってくれればよかったのに。

わたしは出来のいい親から見捨てられないよう、イイコでいるように努力してきた。まさか従順だからって心配されていたなんて。

「いつかやりたいことを見つけたら、私たちに相談してくれるだろうって、楽しみにしていたのよ。まさかこそこそやるなんて、私たち、娘に信頼されていないのね」

「ご、ごめんなさい。もうしません」

「あら、してくれなくても困るわ」

「じゃあ、します。いつか、気が向いたら」

頭のいい人の考えていることは、よくわからない。⑨この人たちは、わたしにどんな子どもでいてほしいんだろう。

どんな子ども……？　それは無理。わたしはわたしのようにしか、なれないじゃないの。

こんなときにも、心のなかには親の顔色を見ている自分がいて、嫌になった。わたしは部屋に引きこもろうと席を立った。

「まだ話は終わってないぞ」

わたしはスイッチを切られたみたいにストンと腰を下ろした。

「反省しているようだから、くどくどと言うつもりはない。孝から話を聞いたよ。お前たちが勝手に孝のところに押しかけたそうじゃないか。悪い大人に目をつけられて事件に巻き込まれないか心配で、面倒を見ていたって言ってたぞ。ちゃんとお礼を言うんだぞ」

「はい……」

「それで、グライダーに乗りたいんですって？　まったく⑩突飛なことに興味を持ったのねぇ。もしも乗るお金があったら、親に黙って乗るつもりだったの？　未成年なんだから、保護者の承諾ぐらい得るものでしょうよ」

「⑪土日なら父さんだって、※3小山に送り迎えくらいしてやれるのに」

「……は？」

お父さんは、ニカッと笑った。

「仕事が来たぞ。福田の義母さんの知り合いの大橋さんのところで、お前たち三人に演奏してほしいんだって。再来週の十一月の日曜に、身内の⑫古稀のお祝いのホームパーティーがあるから、三人にぜひ演奏してほしいって、母さんが頼まれてな」

「どうしても断り切れなかったのよ。綾さんのお兄様が、インカの遺跡が大好きで、何度も旅行で行ったそうよ。だから、アンデスの音楽の生演奏をプレゼントしたくて、できる人を探していたところなんですって」

「わたしは……無理だよ。タカちゃんが一人でやればいいよ」

「にぎやかにしたいんだって。こどもがいたほうが華やかでいいって、ご指名だ。出演料も三人分出すって言ってるし、孝も承諾した。癸生川さんのご両親にも話しておくよ。だから、今回だけは、許可しよう」

「今回だけ、特別よ。初音が本当のアルバイトをするのは、もう少し大人になってから」

「いいの？　ホントにいいの？」

「グライダーの体験飛行も、一度だけだぞ。お前が働いてでも金をためて乗りたがっているんだから、⑬きっとそれなりの理由があるんだろう。だから、一度だけは、許す。そのかわり、勉強もしっかりするんだぞ」

嬉しかった。だけど、手放しでは喜べなかった。

許す、という言葉。

わたしはこの人たちの子どもで、この親が必要で、繋がれている。その無力さが悔しくて、⑭無意識に奥歯をかみしめていた。

グライダーに乗りたい理由？　そんなもの、わたしにはない。美凪が真剣な顔をして乗りたいと※4唯尚くんに言っていたから、そんな美凪を応援したかっただけ。お父さんが考えているほど、立派な理由なんて、わたしは持っていない。

タカちゃんみたいに穴ぼこだらけの大人がわたしの親だったら、わたしはもう少し気楽に大人になる希望を持てたかもしれない。なのに、どうしてこの人たちは、（　D　）んだろう。

⑮優しくて、頑丈で、安全すぎるのだ。

わたしは、この二人のもとから、ちゃんと飛びだしていけるのだろうか。いつかこの両親の壁を越えて、飛び立たなくてはならないときが来るのに。

（梨屋アリエ『空色の地図』より　一部改変）

※1　美凪…「わたし」の幼なじみ。
※2　孝…「タカちゃん」と同じ。「わたし」の叔父。
※3　小山…栃木県にある地名。近くにグライダーの滑走路がある。
※4　唯尚…グライダーの操縦免許取得を目指している大学生。

問1　⑩――「突飛なこと」、⑫――「古稀」の意味をそれぞれ次から選びなさい。

⑩「突飛なこと」

ア　楽しそうなこと　　イ　思いがけないこと
ウ　恐ろしいこと　　エ　大変なこと

⑫「古稀」

ア　六十歳　　イ　七十歳　　ウ　七十七歳　　エ　八十八歳

問2　（　A　）・（　B　）・（　D　）にあてはまる言葉をそれぞれ次から選びなさい。

（　A　）

ア　ため息をつく　　イ　同情する
ウ　なぐさめる　　エ　おどける

（　B　）

ア　ちゃかした　　イ　はげました
ウ　馬鹿にした　　エ　悪態をついた

（　D　）

ア　気がとても強い　　イ　手の内を見せない
ウ　物わかりが悪い　　エ　隙を見せてくれない

問3　（　C　）に入る言葉を文中から五字以内で書き抜きなさい。（句読点・記号を字数に数えません。）

問4　①――「叱られること」とありますが、具体的にはどのようなことで叱られると考えられますか。その説明としてふさわしいものを次から二つ選びなさい。

ア　図書館に行くと嘘をついたこと。
イ　キーボードを練習したこと。
ウ　イイコでいるように努力したこと。
エ　部活動に熱中しなかったこと。
オ　両親にお金を稼ぐことを相談しなかったこと。

問5　②――「わたし」とは誰のことですか。姓名を漢字で書きなさい。

問6　③――「宙ぶらりんの状態」とありますが、その状態を時間で表現している部分を文中から二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

問7　④――「キーボード」とありますが、「わたし」にとって「キーボード」や「音楽」はどのような存在ですか。文中の言葉を使いながら四十字程度で説明しなさい。

問8　⑤――「急に目の前が～気がした」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア　キーボードの練習を止められると思ったから。
イ　美凪や孝とこれからは会えないと思ったから。
ウ　キーボードを没収されると思ったから。
エ　二度と両親に逆らえないと思ったから。

問9　⑥――「これ以上、わたしの自由を奪わないで！」とありますが、「わたし」のこの思いの根底にはどのような思い込みがありますか。それが表れている部分を【　】から「～という思い込み」に続く形で二十五字以内で探し、最初と最後の五字を答えなさい。

問10　⑦――「どうしてわたしはだめなんだろう」とありますが、「わたし」はなぜそのように考えたのですか。その理由として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア　伝えたい思いを言葉に変えて伝えることができないから。
イ　急に泣いてしまい、冷静な話し合いにならないと思ったから。
ウ　塾に通っているが、希望する高校に進学できないと思ったから。
エ　両親に嘘をついてしまい、しっかりとした大人になれないから。

問11　⑧――「ちゃんとした大人」とありますが、これと対照的な表現を文中から十字以内で書き抜きなさい。

問12　⑨――「この人たちは～ほしいんだろう」とありますが、この「わたし」の人生を親はどのように考えていますか。【　】から一文で探し、最初の五字を答えなさい。

問13　⑪――「土日なら父さん～してやれるのに」には父親のどのような気持ちが表れていますか。二十五字以内で説明しなさい。

問14　⑬――「きっとそれなりの理由」とありますが、「わたし」はグライダーに乗りたい理由をどのように考えていますか。その理由を二十五字以内で説明しなさい。

問15　⑭――「無意識に奥歯をかみしめていた」とありますが、このときの「わたし」はどのような気持ちですか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア　両親から今回だけは許可すると言われ、嬉しかったが、二度とグライダーに乗れないことがわかり、その悲しみに耐えている気持ち。
イ　両親の管理下に置かれており、何をやるにしても現在の自分の力ではどうにもならないことに対して悔しく思う気持ち。
ウ　両親から離れられないことがわかり、二度と自分のやりたい音楽ができないことが感じられ、悔しく思う気持ち。
エ　両親からの優しさに対して、答えることが出来ない自分にふがいなさを感じ、なんとか今の状況から逃げたいと思う気持ち。

問16　⑮――「優しくて、頑丈で、安全すぎるのだ」とありますが、両親のことをこのように言う「わたし」の気持ちはどのようなものですか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア　両親は完璧で非の打ち所がないように感じ、堅苦しい思いを抱いているが、早く自立したいという思いが芽生えている。
イ　両親は自分のことを思いやってはくれるが、考え方が古くて今の自分の置かれている状況を理解してくれないという思いが生じている。
ウ　両親は自分の考えを理解しようと努力してくれるが、根本的な部分では何もわかってくれないという思いが生まれてきている。
エ　両親から愛情をそそがれていることはわかるが、私ときちんと向かい合わず、逃げているという思いが芽生えてきている。

二　次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

時間は川の流れのように一刻も休むことなく流れていく。その流れに乗れる時間を現在と呼び、流れ去った時間が過去、これからやってくる時間が未来である。そしてわれわれは、［イ］にこだわらず［ロ］に希望を持てと教えられる。

だが、［i］に銘じておかなければならないのは、われわれが所有できる時間は現在だけだということである。過去はどうしても取り戻せないし、未来には［ii］が届かない。あるのは、［ハ］という、一瞬の時間だけである。

①この時間感覚を実感としてつかむには、②自分を固定しないことである。時間の川を船に乗って移動していると思わなければならない。こちらが動いていること、（　a　）現在進行形こそが、時間のなかにおける人間のまごうことなき姿なのだ。

行き着く先が最終的には死であることは自明である。だがそれをいっては［iii］も蓋もないので、われわれは旅路の途中を楽しみたいと思う。そうやって日々生きているわけだが、多くの人がおかしている誤りは、自分の現在を固定的にとらえるところにある。

（　b　）、現在の自分が不幸だとする。そうすると「不幸駅」に到着してしまったと思ってしまうのだ。

（　c　）、人間は死ぬまではどこにも到着していない。せいぜいが寄港である。寄港だから、そこから離れることはいつでもできる。

常に動く意識、つまり変化を常態とする意識を持てば、いかなる苦労も永遠ではないことがわかるはずだ。

（川北義則『自分のための24時間』より　一部改変）

問1　［イ］～［ハ］にあてはまる語を文中からそれぞれ二字で書き抜きなさい。

問2　［i］～［iii］の表現が後に示した意味になるように［　］にあてはまる漢字一字を答えなさい。

i　［　］に銘じる（強く心に刻む）

ii　［　］が届かない（到達できない）

iii　［　］も蓋もない（表現が露骨すぎて配慮に欠ける）

問3　①――「この時間感覚」とありますが、これを説明したものとして最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア　我々は「現在」という時間だけを所有し、過ぎ行く時間の中で生きているとする時間感覚。

イ　我々の「過去」こそが「現在」「未来」を形づくる礎となる最も重要な時間だとする時間感覚。

ウ　我々が流れゆく時間の中で固定できるのは「現在」だけであるとする時間感覚。

エ　我々の時間は遡ることが不可能であるがゆえに「過去」は固定されてゆくとする時間感覚。

問4　②――「自分を固定しないこと」とありますが、「自分を固定」するとはどのようなことをいうのですか。次のように答えるとき、［　］にあてはまる語を文中から漢字二字で書き抜きなさい。

現在が［　］に続くと考えること。

問5　（　a　）～（　c　）にあてはまる語をそれぞれ次から選びなさい。ただし、それぞれの記号は一度しか使えません。

ア　そこで　　イ　つまり　　ウ　また　　エ　たとえば　　オ　だが

三　次の故事成語の意味として最もふさわしいものを、それぞれ後から選びなさい。

（1）他山の石
（2）五十歩百歩
（3）漁夫の利
（4）矛盾（むじゅん）
（5）蛍雪の功
（6）蛇足
（7）推敲（すいこう）
（8）四面楚歌（しめんそか）

ア　余計なものを付け加えること。
イ　詩や文章をよくするために、練り直すこと。
ウ　苦労して勉強し、成功をおさめること。
エ　決死の覚悟をもって事にあたること。
オ　両者が争っているすきに、第三者が利益を横取りすること。
カ　つじつまが合わないこと。
キ　似たり寄ったりで、大した違いのないこと。
ク　周囲がすべて敵ばかりであること。
ケ　他人の欠点や失敗を自分に役立てること。

四　次の――部の、漢字には読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

①　寛大な両親を敬う。
②　胸部のレントゲン写真をとった。
③　京都には神社や仏閣が多い。
④　お昼に軽い食事をスませた。
⑤　地図をシュクショウコピーした。
⑥　一瞬、母の怖い顔がノウリによぎった。
⑦　祖母にはヒミツでプレゼントを用意した。
⑧　ピアノのチョウリツをする。
⑨　相手チームが試合をユウセイに進める。

平成二十八年度
中学国語解答用紙1－A

受験番号

氏　名

得　点

一

問1 ⑩

⑫

問2 A

B

D

問3 （　）

問4

問5

問6 （　）

〜

問7 （　）

25　5

30　10

35　15

40　20

問8 （　）

問9

〜

という思い込み。

問10 （　）

問11

5

10

問12

二

問13 （　）

25　5

10

15

20

問14 （　）

25　5

10

15

20

問15 （　）

問16

三

問1 イ

ロ

ハ

問2 i

ii

iii

問3

問4

問5 a

b

c

四

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

① う

②

③

④ ませた

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨